

2014年(平成26年)の世界と日本の年平均気温(速報)

～世界の年平均気温が1891年以降最高に～

2014年の世界の年平均気温偏差(速報値)は+0.27℃で、1891年の統計開始以来、最も高い値となる見込みです。

2014年の日本の年平均気温偏差(速報値)は+0.28℃で、1898年の統計開始以来、11番目に高い値となっています。

本資料は、1～11月までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。確定値は、日本については平成27年1月初め、世界については平成27年2月初めにホームページ(*)で発表します。

世界の年平均気温

2014年の世界の年平均気温偏差(1981～2010年の30年平均値を基準値とし、平均気温から基準値を差し引いた値)は+0.27℃で、統計を開始した1891年以降では最も高い値となる見込みです(これまでは1998年の+0.22℃)。世界の年平均気温は、長期的には100年あたり0.70℃の割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています(図1)。

地域別では、アジアやヨーロッパで広く高温となったほか、海域でも北太平洋を中心に広い範囲で高温となる特徴が見られました(図2)。

また、月別、季節別では、4月、5月、6月、8月、9月、10月の世界の月平均気温偏差(それぞれ+0.31℃、+0.31℃、+0.33℃、+0.33℃、+0.35℃、+0.34℃)、及び3～5月(春季)と6～8月(夏季)と9～11月(秋季)の世界の季節平均気温偏差(それぞれ+0.28℃、+0.32℃、+0.31℃)は、統計を開始した1891年以降で最も高い値となりました。

日本の年平均気温

2014年の日本の年平均気温偏差は+0.28℃で、統計を開始した1898年以降では11番目に高い値となっています。日本の年平均気温は、長期的には100年あたり1.15℃の割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が多くなっています(図3)。

年平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が考えられます。また、世界と日本の平均気温は、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動の影響も受けて変動しており、今年の世界の平均気温が高くなった要因の一つとして、夏にエルニーニョ現象が発生したことが考えられます。

* : <http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。

本件に関する問い合わせ先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課
電話 03-3212-8341 (内線 2264)

世界の年平均気温偏差

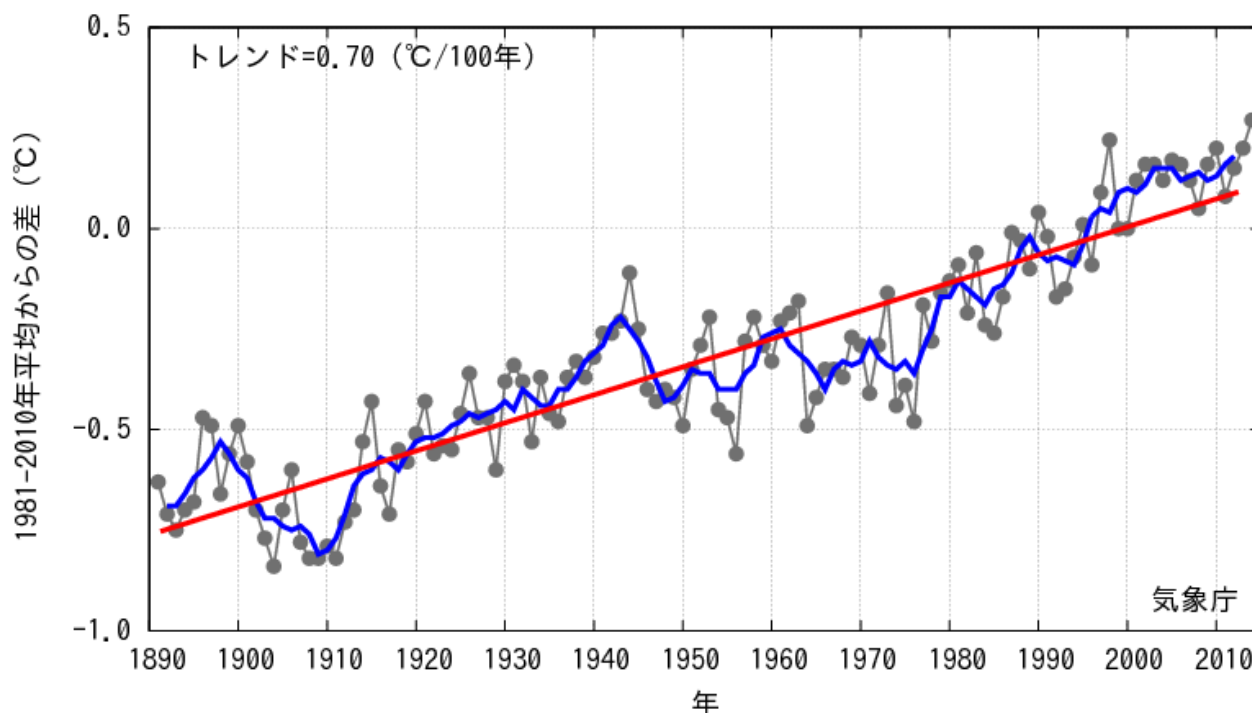
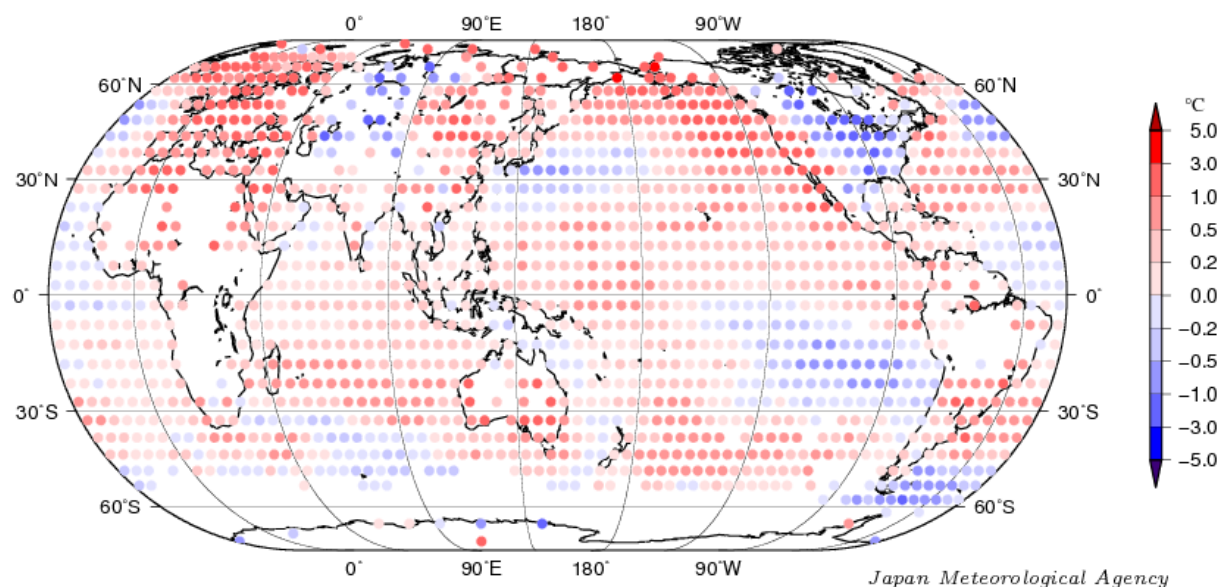


図1 世界の年平均気温偏差の経年変化(1891～2014年)

黒線は各年の値、青線は各年の値の5年移動平均、赤線は長期変化傾向を示す。ただし、2014年は1～11月の期間から算出した値（速報値）を用いている。

年平均気温偏差 2014年



図中の丸印は、5°x 5° 格子で平均した 1981-2010 年からの偏差を示す。

図2 2014年の年平均気温偏差の分布図

各観測点の2014年の年平均気温偏差（1～11月の期間から算出した値）を緯度、経度5度の領域ごとと平均した値で示す。なお、1891年以降の各月の月平均気温偏差及び各年の年平均気温偏差の分布図は以下のホームページに掲載している。

http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/map/temp_map.html

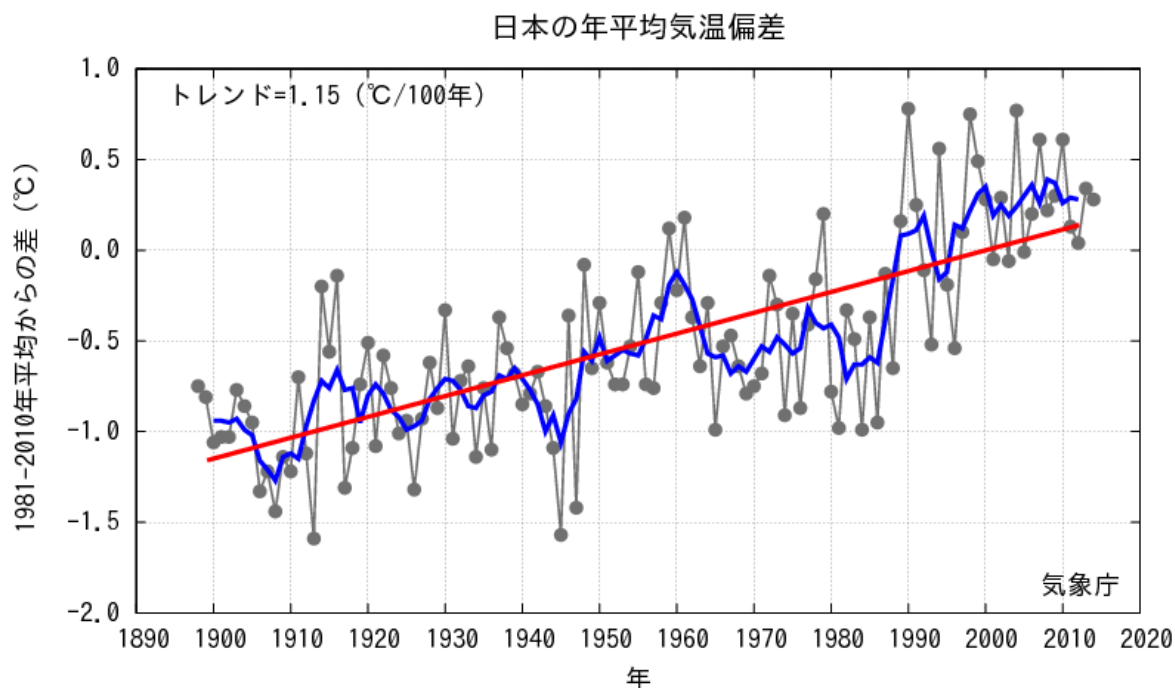


図3 日本の年平均気温偏差の経年変化(1898～2014年)

黒線は各年の値、青線は各年の値の5年移動平均、赤線は長期変化傾向を示す。ただし、2014年は1～11月の期間から算出した値(速報値)を用いている。

なお、日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響が少なく、特定の地域に偏らないように選定した次の15地点の気象台等の観測値を採用。網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

参考：世界と日本の年平均気温の順位(上位10位まで)

世界			日本		
順位	年	気温偏差(°C)	順位	年	気温偏差(°C)
1	2014	+0.27	1	1990	+0.78
2	1998	+0.22	2	2004	+0.77
3	2013	+0.20	3	1998	+0.75
	2010	+0.20	4	2010	+0.61
5	2005	+0.17		2007	+0.61
6	2009	+0.16	6	1994	+0.56
	2006	+0.16	7	1999	+0.49
	2003	+0.16	8	2013	+0.34
	2002	+0.16	9	2009	+0.30
10	2012	+0.15	10	2002	+0.29
			(11)	2014	+0.28

2014年の世界と日本の年平均気温偏差は、1月から11月までの月平均気温の偏差をもとに算出した速報値。

2014年の年平均気温の確定値は、日本については2015年1月初め、世界については2015年2月初めに公表するが、速報値とは順位、値ともが変わることがある。